

CIGS 榎田健児セミナー
「シリコンバレー経済圏の本質と、活用に向けた日本企業の試み
-ワーストプラクティスを超えた模範例と試み」

日 時 2018年4月24日(火) 14:00-16:00 (受付開始13:30)

会 場 一橋大学 学術総合センター2階 一橋講堂
 (東京都千代田区 一ツ橋 2-1-2)

講 師 榎田 健児
 (米国スタンフォード大学 アジア太平洋研究所 リサーチスカラー、
 キヤノングローバル戦略研究所 International Research Fellow)

モデレーター 栗原 潤 (キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹)

参加費 無料

定 員 400名

申込締切 2018年4月16日(月)
 *応募者多数の場合は抽選、ないしは締切日前に募集を止めさせていただく可能性があります。ご了承ください。

セミナー概要

*今回のセミナーの内容は、これまでCIGSで実施した榎田健児セミナーの総括的な位置付けとなります。講演内容の一部に過去のセミナーと重複する内容が含まれる可能性があります。ご了承ください。

シリコンバレーは頻りにメディアに登場し、時価総額と現金保有が世界トップの企業であるアップルやグーグル、そしてフェイスブックなどは日本でも馴染みがある。しかし、シリコンバレーの本質的な仕組みは、まだ広く浸透していない。シリコンバレー経済圏は今後も様々な業界をディスラプトし、人間の活動を自動化に向けて急加速させる震源地であり続ける可能性が高く、日本はこれまで以上にシリコンバレーと向き合っていかなければならない。

日本の大企業の中にはシリコンバレーを活用しようと動き出しているものが増えているが、その多くは典型的な「ワーストプラクティス」に陥り、まだ十分に活用できていない。シリコンバレーを活用するにはまず知識が必要である。

本セミナーはシリコンバレーの根底にある、複数の仕組みとその補完関係や生い立ちを、豊富な例と体験談を用いて解説する。そして、ここ数年で現れ始めた注目すべき日本企業のシリコンバレー活用例も紹介しながら、今後の日本のあり方について模索する。

プログラム

14:00-14:10	イントロダクション 「本セミナーの概要の説明、スピーカーの紹介」 栗原 潤
14:10-15:30	講演 「シリコンバレー経済圏の本質と、SVエコシステムを活用する日本企業の試み-ワーストプラクティスを超えた模範例と試み」 榎田 健児

15:30-16:00	質疑応答と討論
-------------	---------

講師紹介

榎田健児の略歴等

<http://www.kenjikushida.com/>

http://www.canon-igs.org/fellows/kenji_kushida.html

所属：

スタンフォード大学 アジア太平洋研究所 日本研究プログラム リサーチスカラー

Stanford Silicon Valley - New Japan Project プロジェクトリーダー

キャノングローバル戦略研究所 International Research Fellow

Research Affiliate, Berkeley Roundtable on the International Economy

学歴：

2001年6月 スタンフォード 大学経済学部、東アジア研究学部卒業（学士）

2003年6月 スタンフォード大学 東アジア研究部、修士課程修了（修士）

2010年8月 カリフォルニア大学バークレー 政治学部、博士課程修了（博士）

職歴・著書：

2010年9月 スタンフォード大学 アジア太平洋研究所 ポストドクトラルフェロー（～2011年7月）

2011年8月 スタンフォード大学アジア太平洋研究所 日本研究プログラム リサーチスカラー

Stanford Silicon Valley - New Japan Project プロジェクトリーダー

2016年1月 キャノングローバル戦略研究所 International Research Fellow

東京のインターナショナルスクールを経てスタンフォード大学で経済学と東アジア研究を専攻、カリフォルニア大学バークレーで政治学博士を修得後、現職に就く。

情報通信やクラウド、シリコンバレー経済圏、政治経済分析を中心に研究。

日本向けの一般書は『シリコンバレー発アルゴリズム革命の衝撃：Fintech, IoT, Cloud Computing, AI...アメリカで起きていること、これから日本で起きること』、『バイカルチャーと日本人：英語力プラス α を探る』（中公新書ラクレ）など。